# 日本における異言語・異文化受容の通時的研究

国際学部 英語コミュニケーション学科 教授
**拝田 清**
HAIDA Kiyoshi



■専門領域：英語教育学・言語学（言語類型論）・文化人類学
■キーワード：英語教育史、英語音声教育、言語文化教育観、オーストラリア先住民語
■研究者情報：https://researchmap.jp/read0153952

## 研究活動紹介

### 日本の外国語・外国文化受容の歴史

日本人に合った外国語教授法はなにか― を研究する過程で、現在は、外国語習得法の歴史を調べています。
日本で英語を正式に学習するようになったのは、1808年のフェートン号事件にさかのぼります。しかし、日本人が学ぼうとした「外国語」は、英語以前に蘭語(現在のオランダ語)、南蛮語(ポルトガル語，スペイン語)、さらには漢語(中国語)があり、中国語の学習は5～6世紀には始まっていたようです。
調べてみると、外国語学習には歴史的に一貫した方法論が存在し、ある意味、それが日本人に適した外国語習得法だと言えそうなのです。



世界のことばに関するワードクラウド

### 特別支援教育における外国語教育

特別支援教育において外国語［英語］がどのように教えられているか、そして、様々な特性を持つ児童・生徒にどのような外国語教育を行えるのかを研究しています。まだまだ研究の進んでいない分野であるため大変ではありますが，社会貢献につながる研究であると自負しています。


誰もが自分らしく生きるインクルーシブな世界へ！

## 実学へのつながり・産業界へのメッセージなど

「教育は国家百年の大計」と言われるように、すぐに成果が出るような性質のものではありませんし、「効率化」とも本来は相容れない性質を持っていると思います。
外国語学習も同じで、すぐには役立ちませんが、かならず人生を豊かにしてくれます。

## 論文・学会発表など（代表）

【研究業績】（主要3件）
・書評『日本人は英語の発音をどう学び，教えてきたか ―英語音声教育の小通史―』研究社（2024）（実践英語音声学 第6号，日本実践英語音声学会 2025）
・特別支援学校における外国語教育―首都圏，及び川崎市の特別支援学校の実態把握を中心に―（和洋女子大学英文学会誌 第61号 和洋女子大学英文学会 2026）
・助動詞「（ら）れる」の多義性に関する一考察―「be to 用法」＜可能＞との類似性をもとに―（和洋女子大学英文学会誌 第61号 和洋女子大学英文学会 2026）